



～地域から日本を元気に～

「南あわじ創生」の実現を



▲議場で施政方針を述べる守本市長

2月23日に招集され第77回市議会定例会において、守本市長が施政方針を述べました。その概要をお知らせします。なお、施政方針の全文と予算の詳細は市ホームページからご覧いただけます。(予算と主要事業の記事は4～7頁)

〔施政方針概要〕

全国的に人口減少や東京一極集中が進み日本の将来への不安が高まりつつも、一方で、地域が持つ魅力や可能性にかつてない関心が向けられています。こうした兆しを確固たるものとし、地域から日本を元気にしていく必要があると考えています。自らの地域をより良いものにしようと取り組んでおられる皆様と手を携え、南あわじらしさを最大限に活かして、それぞれが望む生き方、働き方を実現できるこれからの時代にふさわしい新しい地域社会の構築に向けて、地域創生に挑んでまいります。

〔5つの行動〕

- ① 超高齢化社会の克服(仕事・社会貢献の継続による健康寿命の伸長)
本市の最大の課題は、急激な人口減少と超高齢化社会への対応です。この課題を克服するためには、シニア世代の皆様方に、できるだけ社会を支える側に立ち続けていただき、また、社会参加による生きがいや喜びを通じて健康を保ち続けていただくことが必要です。市民による主体的な地域活動や就業機会の創出を図るなど、シニア世代等の活躍の場を拡大し、健康保持による医療・介護費用の低減や地域の人手不足の解消を図ることを目的として、「高齢者等元気活躍推進事業」を最重要施策に掲げており、平成30年度はいくつかのモデル事業を実施します。
- ② 子育て環境の向上と教育の充実
少子対策は本市の看板施策の一つとして定着し、平成27年国勢調査などによる合計特殊出生率は1.83と県内トップです。この大きな要因は全国に先駆けて保育料の無償化を実現し、様々な子育て施策を推進したからにはかなりありません。いよいよ国でも無償化の方針が打ち出されました。その動きを注視しつつ、子育てにやさしいまちづくりに努めます。
- ③ 地域の資源を活かした地元産業の活性化
義務教育段階での魅力ある教育環境づくりも重要です。手触り感のある教育を通じて知識を蓄積するだけではなく、社会人基礎力の養成を進めます。

- ④ 安心・安全のまちづくり
近い将来発生が危惧される南海トラフ巨大地震については、兵庫県津波防災インフラ整備計画で重点地区に指定されている福良港、阿万港、沼島漁港における防波堤等の整備を国・県と連携しつつ着実に実施します。
- ⑤ 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり
昨年春に市民協働課を設置し、チャレンジ事業補助金制度を創設するなど、「対話と行動の行政」の具体化に取り組んでまいりました。自治会をはじめ地域の皆様の積極的な取り組みにより、平成29年度は地域の活性化に向けた3件の事業が開始されました。平成30年度は市民協働課を市民部から新設する総務企画部へ移管し、全庁を挙げた「対話と行動の行政」の実現を一層強力に推進します。



▲施政方針全文

施政方針

中田前市長 井戸兵庫県知事から感謝状



井戸兵庫県知事(右)から感謝状を受け取る中田前市長(左)

中田勝久前南あわじ市長の在職期間中の兵庫県政への協力と地方自治振興への功労に対して2月13日、兵庫県庁で井戸知事から感謝状が手渡されました。

中田氏は合併後の平成17年2月から初代南あわじ市長に就任しました。3期12年間にわたり、少子対策や防災・減災対策、産業振興

をはじめ、観光・教育・文化の向上に多大なる功績を残されました。

また兵庫県市長会の副会長をはじめ、県漁港漁場協会会長や県港湾協会理事、県農業共済組合連合会副会長などの要職も務められ、県政の発展にも多大なる尽力をされたことから、今回の感謝状贈呈となりました。

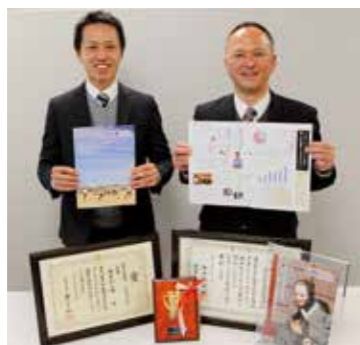
広報10月号・11月号が 広報コンクールで賞を受賞

◆第30回近畿市町村広報紙コンクール

昨年10月1日発行の広報南あわじ10月号が近畿市町村広報紙コンクールで奨励賞を受賞しました。郷土芸能である淡路人形浄瑠璃による振り込め詐欺の注意喚起を取り上げた特集記事が高く評価されました。

◆第65回兵庫県広報コンクール1枚写真の部

広報南あわじ11月号の小学生の陸上競技大会を撮影した表紙写真が兵庫県広報コンクールで入選しました。 ※これからも市民の皆さんに読みやすく、親しまれる広報紙の作成に努めてまいります。



受賞を喜ぶ広報担当者(左)と受賞した広報紙への二次元コード(上)10月号、(下)11月号

松帆銅鐸をPR 淡路島古代フェスティバル

歴史的な大発見となった松帆銅鐸。この魅力をPRするため3月4日、淡路島古代フェスティバルが淡路ファームパークイングランドの丘と美菜恋米屋で開催されました。



はじめ、歴史を感じさせるグッズなどを販売するマルシェが美菜恋米屋内に登場。大勢の来場者が、オリジナルのグッズを買い求めていました。

この日はミニチュアの松帆銅鐸や組み紐ストラップのほか、淡路島牛乳を使った松帆銅鐸の形をしたチョコレトづくりなどのワークショップが行われ、子どもたちが挑戦していました。 また松帆銅鐸だけでなく、倭文小学校の児童による「古代布しづおり」の販売をは

イングランドの丘のヒルトップホールでは元興寺文化財研究所の小村真理さんによる講演「松帆銅鐸の紐と古代の紡織技術について」が行われました。国内外の歴史的な紐の素材や組み方などの紡織技術と松帆銅鐸からの発見された紐との比較などの話は、ホールいっぱいの来場者を魅了していました。